

十分のしゅくだいと二時間のウソ

弘前市立和徳小学校

後藤 碧斗

ぼくは、『先生、しゅくだいわすれました』という本をえらびました。この本を読もうと思った理由は、しゅくだいって大切なのに、なぜ本のタイトルが「わすれました」となっているのか気になってえらびました。

この本は、ゆうすけ君という男の子が、しゅくだいをわすれたことからじまります。さいしよは、わすれた理由を、だれかがびよきとか、死んじやったというウソをつきました。しかし、先生にすぐにウソがばれてしまいます。先生は、「ウソをつくなら、すぐばれるようなのはためだよ。もつと、ばれないようなので、それから、聞いた相手が楽しくなるようなのじゃなくちゃ。」と言いました。じょうずにウソをつけるなら、しゅくだいをしなくてもよいと言うのです。次の日にゆうすけ君は、しゅくだいをわすれてきました。その理由は、うちゅう人に算数の九九を教えていたら、いつのまにか朝になっていたのです。しゅくだいができなかつたということです。それを聞いた先生は、「それじゃあ、しゅくだい、で

きなくつてもしかたないわね。」とウソの理由でもゆるしました。それから、毎日一人ずつウソの理由を言って、しゅくだいをわすれてくる人がでてきます。しかし、まじめにしゅくだいをやりたい人もでてきて、もめた後、さいごは全いんしゅくだいをやってきておわりました。

ぼくは、ゆうすけ君の、しゅくだいは十分でおわるのに、ウソを考えるのは二時間もかかったという言葉が心にのこりました。なぜなら、しゅくだいは十分でおわるのに、ウソの理由を考えるのに二時間もかかるのであれば、しゅくだいをやったほうがましだと思つたからです。

ぼくは、しゅくだいをわすれたくありません。しゅくだいをやってくると、気もちがいいからです。ぼくも、前に学校にしゅくだいをわすれてしまったことがあります。その時は、朝に四十分ぐらい早く学校へ行つて、しゅくだいをやっただけけんがあります。その時は、ドキドキしてあまりねむれなかつたし、ふ安になりました。朝、学校でしゅくだ

いをやっている時も、あせってうまく計算ができなかったりと、全ぜんいいことがあります。

この本を読んで、ウソをつけてしゅくだいをやらないことは、よくないと思いました。しゅくだいは、自分が学校のじ

ゆぎょうで習ったことをおぼえるためにひつようなことだと思うので、これからもしゅくだいをわすれずに、がんばっていこうと思いました。